

# 面接試験（個別面接用・口頭試問用）

学部学科（課程）名等	情報学部 情報社会学科
------------	-------------

選抜区分	学校推薦型選抜【共通テストを課す】（令和6年度）
面接員数	3人
面接時間	約20分（受験生1人に対して）
主な質問内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 志望動機、興味、関心</li> <li>2. 情報社会学科の研究・教育内容について事前に調べたか（Web、MOVE、学部説明会、等）</li> <li>3. どういう勉強をどのようにしたいか（内容面と方法面）</li> <li>4. 卒業後の進路希望</li> <li>5. 「ミニ講義」（情報社会学科教員による「ミニ講義」）の内容についての理解と、それに対する見解について</li> </ol> <p>ミニ講義            （タイトル）情報社会の「休み方」            （ねらい）情報社会における長時間労働やネット依存といった社会課題を題材にして、受験生の理解力、論理的思考力、課題解決力を精査することが本講義の目的である。</p> <p>（概要）社会の情報化は長時間労働、仕事のプライベートへの浸食、ライフワークバランスの悪化、ネット依存を助長し、人々が休息や休暇を取ることを困難にする場合がある。本講義では、オンラインショッピングの普及による運送業関係者の労働環境悪化、インターネットと情報機器の普及による時間外労働の増加、ネットゲームやSNSの普及によるネット依存といった具体的事例に即して、どのような人々がどのように「休みづらい」状況へと追い込まれているかを考察した。そのうえで、休息や休暇を取りやすくするために導入されつつある対策を、国や自治体の取り組みを中心に検討した。具体的には、勤務間インターバル制度、つながらない権利、働き方改革、ネット依存対策キャンプ、自治体のネット依存対策条例について、そ</p>

れぞれの現状と課題を考察した。最後に、情報社会において生起する「休みづらい」状況を改善するためには、複数の対策を効果的に組み合わせて相乗効果を生み出したり、個々の対策の限界を相互に補ったりするような複合的／多面的アプローチが必要になることを示して講義のまとめとした。

(質問)

- (1) 講義では、オンラインショッピングの普及が一因となって、長時間労働や残業を強いられがちの人々が紹介されていました。それはどのような人たちでしたか。また、その人たちはなぜ長時間労働や残業を強いられがちなのですか。講義内容を踏まえて説明してください。
- (2) より多くの人々がしっかり「休める」情報社会を実現するためには、どのような対策が必要だとあなたは考えますか。講義で示されていないものを挙げてください。
- (3) 質問(2)で挙げた対策は、どのような人たちをどのようにして「休める」または「休みやすい」状態に導くと考えられますか。
- (4) 人々がしっかり「休める」社会を実現するための複合的／多面的アプローチとして、具体的にどのようなものがあるとあなたは考えますか。